



第89号

●主な記事

令和8年度行事のご案内
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和8年6月12日発行
一般社団法人 長野高等学校金鷄会
事務局 ☎(026)235-3822
発行人 山口 利幸
編集人 原 良通
.....
URL
<https://www.kinshi.org>
E-Mail
dousoukai@kinshi.org



ご挨拶

わが国では地震活動の活発化と地球温暖化による気候変動の影響が顕著になってきました。また、国際社会では大

国の自国第一主義や力の政策により、国際秩序は混迷と不安の度を深めています。このような見通しのきかないなかですが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。日ごろから長高金鷄会にご理解ご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

令和7年度事業はデジタル化の推進に課題を残していますが、他は概ね計画通りに遂行できました。「太陽光奨学金」は2名枠のところ申請者が5名で校内調整が困難であったため減額して全員に支給しました。卒業生からの篤志寄付を加えて対応しました。寄付者の中には、この奨学金に使ってほしいとされる方もおり、後輩への熱い思いに感動いたしました。ありがとうございました。さて、3年後の令和11年に母校は「創立130周年」を迎えます。昨年からはPTA、学校と8月の実行委員会の発足に向けて準備をしています。130周年事業の概要については次号でお伝えします。会員の

会長 山口利幸（高17回）

皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

ところで、国は本年度から高校授業料の新たな無償化を実施しました。新制度は私学の所得制限が撤廃され、私学の授業料の全国平均に相当する45万7,200円に上限が引き上げられましたので、一挙に公立高校志願者（公立授業料は11万8,800円）が減少し私立高校へ集中しました。全国47都道府県のうち本県を含む33道府県で公立の志願倍率が「一倍割れ」となり、本県の全日制の入試倍率は0.88倍となりました。母校は志願者が定員を若干超えましたが、都市部の高校でも定員割れの学校が何校か出ました。私学は独自の建学精神とともに教育環境に優れているのが魅力の一つとされています。

こうした公立と私学の新たな状況の中、母校に期待されている使命を果たしていくために、これまで以上に同窓会の支援が必要になってきたと感じています。このような気持ちを結集して、来る6月27日（土）の総会を迎えたいと思っております。一人でも多くの方に参加していただき、校歌「山また山」を高らかに歌いましょう。“起てよいざこぞりて”こそが“われらが頼み”ですから。



4月4日（土）全日制281名、定時制10名を迎えて令和8年度の入学式が行われました



ご挨拶

学校長 佐野浩一郎

今年から長野高校の校長に就任いたしました佐野浩一郎と申します。3月まで長野県教育委員会高校教育課高校再編室の室長を務めさせていただきました。高校教育課での延べ4年間の勤務において、様々な部署の方々が縁の下の力持ちとなって現場を支えてくださっていることに気づかされました。県庁におりますと、なかなか生徒の顔が見えないのですが、それでも今学んでいる生徒やこれからの生徒たち、教職員のより良い環境づくりのため尽力いただいていることに感謝です。

さて、現在学びが変化してきています。第4次長野県教育振興基本計画の政策の柱に書かれている通り、「一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校」をつくることが求められています。予測困難な時代、自らが問いを立て、自分事として主体的に学び続け、探究し続けないとこれからの時代何かを成し遂げることはできません。学校もまた、私立のいわゆる高校無償化によって、各校特色を打ち出していかなければなりません。胡坐を掻いて、何もしないことは後退を意味します。先輩方が脈々と築いてきたこの伝統に加えて、新しい時代に適応した改革が求められています。第4次長野県教育振興基本計画も今年4年目となり、長野県総合

5か年計画に対応する教育分野の個別計画として、来年が集大成です。どこまでその理念が浸透し、実施でき改革が進んだのか、しっかりと検証を進め、少しでも前に進められるよう努力しなければなりません。

「不易流行」は教育で当てはめるならば、不易：人を育てる、人間性を磨く、学ぶ喜びを本質とし、流行：ICT活用、探究学習、指導法の刷新といったところでしょうか。生徒が主語の学校、そして、その力を伸ばす工夫、ここに尽きると考えます。前例踏襲やマニュアルだけに縛られるのではなく、守るべきものを見極め、変える勇気を持つことです。10年、30年、50年後の生徒たちが活躍する姿を思い描きながら、現代の教育に携わりたいものです。

2029年、本校は、いよいよ130周年を迎えます。同窓会の皆様のお力が無ければ、この事業は成り立たない訳ですが、生徒も巻き込んで共に、この先の130年を意識しての事業となるように取り組みたいと考えています。

これまでも同窓会の皆様には物心両面にわたり手厚くご支援をいただいております。今後とも生徒たちの教育活動や環境整備に向け、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

母校近況

令和7年度金鷄賞

令和7年度に顕著な活躍をした班に同窓会より総額40万円の副賞を添えて金鷄賞を贈りました。

1. 金鷄優秀賞 4万円
弓道班・吹奏楽班・羽球班
ソフトテニス班・陸上競技班
2. 金鷄優良賞 3万円
美術班・ECC班・ダンス班・水泳班
3. 金鷄奨励賞 2万円
応用物理班・サッカー班
囲碁・将棋班・籠球班



4. 金鷄特別賞

各班で個人として活躍した生徒及び班活動以外の特別活動で活躍した29名に金鷄特別賞を贈りました。



● ラグビー班「^{えにし}楢円球がつなく縁」

顧問 山本俊介



ラグビー班顧問を仰せつかって4年目となりました山本と申します。本校に赴任するまでは野球部の顧問一筋でラグビーに関しては全くの素人でしたが、大学時代はアメフト部に所属していたこともあり、不思議な楢円球の縁を感じています。

今年度のラグビー班は監督でOBの笠井道也先生(高43回)を筆頭に、選手5名、マネージャー1名の計6名で活動しています。人数不足のため、現在は合同チームとして大会に臨んでいます。練習日程の調整等大変な部分もありますが、合同チームとしての活動は、本来なら出会わなかったであろう他校の仲間と、ラグビーを通じて深く結びつく「横のつながり」を育んでくれます。異なる環境の生徒が一つの目標に向けて学校の垣根を越えた絆を築く経験は、彼らの人生

において貴重な財産になると感じています。

また、ラグビー班の活動に欠かせないのが、OBの皆様との「縦のつながり」です。昨年度の夏には、OBの和田勝光さん(高58回)が中心となって「OB・現役交流タッチフット大会」を企画していただきました。世代を超えて楢円球を追い、大いに盛り上がったその時間は、現役生にとって伝統の重みと先輩方の情熱を肌で感じる、素晴らしいひとときとなりました。

この楢円球が様々な場所で織りなす豊かな縁(えにし)こそが、ラグビーという競技の素晴らしいの本質であると実感しています。こうした厚いご支援への感謝を胸に、ラグビーの魅力を体現し、発信できるような班活動にしていきたいと考えています。今後とも変わらぬご声援をよろしくお願い申し上げます。

● ダンス班

班長 3年 伊藤優月

私たち長野高校ダンス班は、この4月に1年生を15名迎え、現在は44名で活動しています。日々、校内ステージや金鷄祭ステージ、大会を見据えて基礎練習や振り付けの練習を重ね、技術向上を目指しています。もちろん、活動の中では、楽しいことばかりではなく、難しさを感じ

る場面もあります。個々のダンスについての課題だけではなく、全体で見たときの一体感についての課題など、練習の過程で見つける課題には限りがありません。しかし、そのような課題に全員で向き合い、繰り返し練習を重ねることで少しずつ形になっていきます。

最初はうまくいかなかった部分乗り越えた瞬間には、大きな達成感があります。

昨年度は10月26日(日)にキッセイ文化ホールで開催された第20回長野県高等学校ダンスフェスティバルに、作品テーマ「大和魂」で出場しま



した。ゼロベースから始まった作品作りでしたが、OGであるコーチのお力もお借りして練習を重ね、幸せなことに審査員特別賞をいただきました。

本番の舞台を仲間とともに踊り切った後の充実感は何ものにも代えがたいものです。観客の手拍子や拍手をいただけたときには、練習して

きてよかったと心から感じます。見ている人が楽しんでくれることがダンスの存在意義だと思います。いつも私たちを支えてくれて、応援してくれるすべての方々には感謝してもしきれません。これからもそんな方々の心を躍らせられるようなステージを目指して活動していきます。

● 囲碁・将棋班



ですが、今は少ない人数で活動しています。ちなみに囲碁・将棋班という名前ですが、2人とも将棋を指しています。班長は小学校1年生から将棋を指し、副班長は高校に入るまではネットで将棋を指していたという2人で、切磋琢磨しながら活動しています。

昨年度の新人戦では班長がA級で4位、副班長がB級で優勝しました。また、班長は過日行

囲碁・将棋班は、現在2年生1名、3年生1名の2名で活動しています。数年前まではもっと人数がいたの

われた高校竜王戦の東北信予選を通過し、6月の県大会に出場します。そして県大会で優勝し、高校竜王戦の全国大会への切符を手にした暁には、かの有名な竜王が審判長を務める福岡に行くことができます。

大会には高校竜王戦、高校選手権大会、そして高校新人戦という年に3つの全国につながるものがあり、それらに向けて日々練習をしています。また、個人戦と団体戦があり、今のところ個人戦に出場しています。競技では持ち時間というものがあり、10分30秒の大会がほとんどです。10分間は自由に考えられて、そのあとは一手30秒以内に指すということです。

この持ち時間は長いようで、ものすごく短いのです。従って大会では、この時間配分が本当に

顧問 尾崎修二

難しく、例えば、序盤でたくさん時間を使ってしまうと、中終盤に一手30秒で指さなければいけなくなり正確に指せなくなってしまいます。他にも、お互いに一手30秒になると逆転することも多々あり、大会では一瞬の判断が勝敗を分ける白熱した試合になります。

5月15日(金)16日(土)に松本市で行われた、第56回長野県高等学校将棋選手権大会におきまして、班長の関和真さんが見事優勝し、夏に秋

田で行われる全国大会への出場権を手に入れました。

この記事を読んで少しでも囲碁将棋班に興味を持った方がいたら、ぜひ入班してください。



海外研修報告

NGP係主任 黒岩寛明

1. シンガポール大学研修

- (1) 日程 2026年3月8日(日)～13日(金)
- (2) 参加者 6名
- (3) 内容 シンガポール大学の教員・大学生との探究実践

2. 米国研修

- (1) 日程 2026年3月15日(日)～21日(土)
- (2) 参加者 36名
- (3) 内容 ハーバード大学、MIT、国連で模擬講義と学生との討論
Francis Lewis High Schoolで授業体験、発表、生徒と交流

海外研修を通して多くの生徒たちは「積極性」「異文化理解」の重要性について認識を新たにしています。ミスを恐れず、コミュニケーションが成立した喜びを感想に書いています。また、今の高校ではカリキュラムとして「課題研究」があります。興味のあるテーマを探究するものですが、その専門性のある方を研修地で見つけて連絡先を交換し、今後に役立てようとする積極的な生徒が複数見受けられました。米国研修ではOB・OGの方々と会食会を設定しています。今年には和田照子様(高40回)、小林陽子様(高48回)、飯島渉様(高56回)の3名の方に出席していただきました。現地での活動、社会課題、政治、経済の話題で盛り上がり、生徒たちにとって良



シンガポール

い刺激になっています。シンガポールでも企画できないかと考えております。金鷄会の皆様には、ニューヨーク、シンガポール在住の方を自薦他薦紹介いただきたいと願っております。

○参加生徒感想

- ・シンガポールに関する知識だけでなく、多文化社会における人との関わり方や、相手を理解しようとする姿勢の重要性を学んだ。また、言語が完全でなくても伝えようとする意志があればコミュニケーションは成り立つという実感を得ることができた。たとえ英語が滞りなく話せたとしても、相手の文化や背景知識

を知っておくといふのはとどんな場面においてもほぼ必ず役に立つ、ひいては必須なものであるということ強く感じた。

・現地高校では日本の高校で言う総合学習のよう



ニューヨークでのOB・OGとの会食会

なものをまず体験したが、テーマに沿ったロボットを作成し、うまく作動するようにプログラムを組む学習や、製品を開発し、プロデュースから利益を出すまでを自分たちで行

う学習など社会で求められる主体的な能力を身につけることのできる学習に力を入れているなど感じた。

・完璧な英文でなくても、単語だけでも十分相手に伝わるということに気づきました。

それよりも積極的に伝えてみるのが大切なのだと学びました。また、街を歩いていると、アメリカが「人種のるつぼ」と呼ばれる理由を実感し、異なる価値観に触れることができました。また、留学生と歴史の学習について話した時、日本は用語を丸暗記だが、アメリカでは出来事に対して理由を考えると聞いて教育の違いにも驚きました。この研修で学んだことを日本の友だちにも伝えて、日常でも活かしていきたいです。



アメリカ ニューヨーク タイムズスクエア

令和7年度 長野高等学校教育設備改善のための委員会 会計報告

収入総額 1,911,931円
 支出総額 511,330円
 差引残額 1,400,601円

支出		(単位：円)
科 目	決算額	
ICT環境整備	174,900	
Wi-Fi利用料	43,560	
フィールドワーク交通費補助	27,700	
生徒派遣費	53,090	
印刷費	211,200	
雑費	880	
支出総額	511,330	
収支差額	1,400,601	

収入		(単位：円)
科 目	決算額	
雑収入	3,077	
前年度繰越金	1,908,854	
収入総額	1,911,931	

進路指導について

「雑感」

進路指導主事 八角裕之

同窓会の皆様は、それぞれ母校の進路指導についてご意見をお持ちのことと存じます。短い文章では意を伝えることができませんが、折角の機会ですので、お叱りを受けることを覚悟で寄稿させていただきます。

まずもって、常日頃より生徒たちのために格別なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。進路学習支援係としては、医学科・東大・東北大等の入試研究会や東大入試対策講座など、ご支援の一部を様々な企画に有意義に使わせていただき、生徒たちの進路希望の実現に寄与していただいております。その成果の一つとして、昨年入試では東大をはじめとする難関大学・学部の合格者が増加しました。昨年は共通テストが難化し平均点が大きく下がりました。そのため全国的に「安全志向」が強くなりましたが、本校生徒は「行きたい大学」をベースに「挑戦を恐れず、最後まであきらめない」姿勢を貫き、多くの者が栄冠を手にかけています。

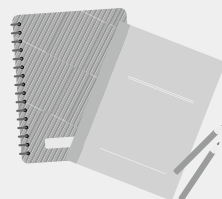
ここで一つお断りしなければならないのは、難関大学進学だけが進路指導の目的ではないということです。どうしても「東大〇〇人」などが独り歩きしがちですが、当然それが全てではありません。ただ、「できるだけ高い目標をもち、みんなで最後まで頑張ろう！」と、係として機会あるごとに生徒たちに話しています。できるだけ高い目標の一つが難関大学であり、それらに向かって努力し苦しむ中で、生徒たちはそれぞれの決断をしていきます。そしてその最終決断は、どれもすべてが尊いものです。

また「最後まであきらめない」姿勢の表れとして、国公立大を中心として「中・後期日程試験」の合格率の高さを本校の特長としてあげることが

できます。一般的に前期が終わると気力が萎えてしまう受験生が多い中で、本校生は最後まで頑張り切る「胆力」をもっています。さらに「みんなで頑張る」気持ちも強くと感じています。先述した「できるだけ高い…」という係の話に「何を当たり前のことを」と感じた方もいらっしゃると思いますが、それが今の高校生には難しいことなのです。

ところが、本校の生徒たちはそれができます。なぜか？一つには、ここまで紡がれてきた伝統の力があるからだとは私には考えています。先輩から後輩へ、そしてまたその後輩へと脈々と引き継がれている思いが今の長野高校を作っている、子どもたちの精神を作り上げているのではないのでしょうか。そもそもの進路指導の目標は「将来子どもたちが、いかに社会と関わりどう生きていくのか、を考える基礎作り」にあると思います。そのためには、高校時代に勉強だけでなく、班活・生徒会・探究活動など、高校生活すべてに積極的に関わりながら、己を知り磨いていくことが必要です。その伝統もまた本校にはあります。

「高校生活を謳歌しながら、進路希望も叶えていく」そんな甘いことを言っていて大丈夫か？と聞かれると、正直分かりません。ただ、生徒たちは猛烈に忙しい中で、精一杯足掻いています。もがき苦しみながら、日々成長しています。今しばらくは、このまま応援してあげたい。同窓生の皆様もぜひ、そんな健気な後輩たちを、さらに応援してあげてください。ありがとうございました。



支部・同期会・OB会だより

*写真と文章が別ページになっています。写真をカラーページに掲載するための新しい試みです。
いかがでしょうか。





東京長高金鷄会

令和7年12月13日(土)、東京長高金鷄会総会・講演会が経団連会館にて盛大に開催されました。年の瀬という多忙な時期にもかかわらず、高10回生から高71回生までの幅広い世代の65名が参加し、母校への愛情と絆を深める貴重な機会となりました。

ご来賓として、小坂壮太郎金鷄会副会長(高32回)、小西恵金鷄会副会長(高33回)、原良通事務局長(高29回)にご出席いただき、2029年の本校創立130周年に向けた記念事業実行委員会の立上げや、同窓会組織のDXの推進、現役生たちの近況等についてお話しいただきました。

総会では、山内雅喜会長(高31回)の挨拶に続き、アメリカで活躍中の和田照子幹事長(高40回)に代わり、松宇正一副幹事長(高36回)より、活動報告や会計報告が行われ、副幹事長として野澤航介氏(高63回)、若林慎子(高66回)2名が新たに選出されました。

今回の講演会のプログラムは、星野真澄氏(高38回、NHKコンテンツ制作局エグゼクティブプロデューサー 新プロジェクトX編集長)による「サグラダ・ファミリア2026 天才ガウディの謎に挑む～密着!! 最大のシンボル『世界一高い石の塔』の舞台裏～」というテーマでの講演、渡邊さやか氏(高53回、長野県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科 准教授)による「ソーシャルアントレプレナーシップとビジネスのあり方」というテーマでの話題提供でした。

講演では、貴重な映像を交えながら、完成へと近づくサグラダ・ファミリアの最新の取組みや制作の舞台裏について、2026年完成予定の中央塔「イエス・キリストの塔」をめぐる新プロジェクトX続編制作についてご紹介いただきました。また、取材を受けないことで知られる彫刻家・外尾悦郎氏に取材を重ねたエピソードなども語られ、非常に深い印象が残りました。

その後の話題提供では、そもそもソーシャルアントレプレナーシップとは何か、そして社会的企業の台頭背景や社会的価値を重視するビジネスの在り方について学ぶ貴重な機会となりました。

懇親会は、多方面で活躍する卒業生が世代を超えた交流を楽しみ、締めくくりの「山また山」で、充実したひとときを共有しました。(高66回 若林慎子)

高68回 卒業10周年記念同窓会

私たち高68回卒業生は、卒業から10年という節目を迎え、令和7年12月30日(火)、犀北館にて「高68回卒業10周年記念同窓会」を開催しました。当日は、同窓生110名、恩師6名の総勢116名が参加し、会場は久しぶりの再会を喜ぶ声と笑顔であふれ、にぎやかで心温まるひとときとなりました。

久しぶりに顔を合わせた瞬間、時間が一気に高校時代へと巻き戻り、会場のあちこちで思い出話や近況報告に花が咲いていました。それぞれ進んだ道や環境は違っても、「同じ学年」という共通点が自然と距離を縮めてくれたように感じます。また、担任の先生方の変わらぬ温かい言葉に、10年の時を経た今だからこそ励まされる思いがしました。

会の途中では、3年次の金鷄祭で制作したOP・EDムービーが上映されました。スクリーンに映し出された懐かしい映像や音楽に思わず歓声が上がリ、当時の空気が仲間と過ごした日々が鮮明によみがえりました。

今回の同窓会は、過去を懐かしむだけでなく、これからのつながりを改めて確かめ合う大切な機会となりました。次の節目には、さらに成長した姿で再会できることを楽しみにしています。(加藤智樹)

剣道班OB・OG会

金鷄剣友会からOB・OGの皆さんへ

60年以上続く恒例の剣道班OB・OGと現役生の交流および新年稽古会が、今年も1月2日(金)に母校剣道場で行われました。82歳から20歳のOB・OGが駆けつけ、現役生の実力向上のために汗を流してくださいました。

近年の剣道班の実績は平成28年から令和6年まで毎年のように男女団体あるいは個人の部で県大会上位入賞をし(男子団体は準優勝2回)、北信越大会出場を果たす(男子団体5回、女子団体3回、男女個人7回)という県下有数の強豪校に育っています。

卒業後のOB・OGの中にも平成の時代に全国大会に県代表として出場した方もおられます。全日本剣道選手権大会(大草・36回、宮尾・49回)、全国教職員剣道大会(酒井・26回、大草・36回)、全国警察剣道選手権大会(宮尾・49回)、国民体育大会(宮尾・49回)等々。記憶に新しいところでは令和4年、横浜国大4年の横

田さん(71回)が関東大会を勝ち抜いて全日本女子学生剣道優勝大会に出場したことです。これは長野県出身者としても過去に例を見ないほどの見事な成果です。このようにOB・OGの活躍も現役生に刺激を与えているといっても過言ではありません。加えて歴代監督と現役生の一体感のある活動が功を奏していることも間違いありません。

今回の稽古会では何と言っても82歳の小島大先輩(14回)が16・17歳の県下有数の強豪選手の打ちをびくともせず打ち返す姿は圧巻で、その姿に神々しさを感じたのは私だけではありません。鍛え抜いた剣道の神秘性とオーラを改めて感じた次第です。

OB・OG会は金鷄剣友会という名称で活動しています。掲載の写真で役員の紹介をしておきます。前列左から2人目・竹内副会長、同3人目・河守副会長、前列中央・酒井会長、中央右・市村監督、同右から3人目・宮尾副会長、中列右端(立姿)・大草副会長、同右から3人目・丸山副会長、後列左端・小林副監督。

昨今個人情報保護の観点から、特に若い世代のOB・OGの方々の消息の確認が困難になっています。この記事を読まれたOB・OGの皆様でお志のある方はぜひ、下記の金鷄剣友会事務局のメールアドレスにご一報いただければ幸甚に存じます。追って支援方法や通信等をご連絡いたします。よろしく願いいたします。

遠い昔、放課後の剣道場で共に汗を流した剣友が、数年前遠く長崎の地で剣道に邁進している姿に触れ、懐かしさと嬉しさと心温まる思いがしました。恒例の新年稽古会は毎年1月2日、13:30集合で母校剣道場を会場に行っています。皆様のご参加をぜひお待ちしております。またお近くにいられた時にはいつでも剣道場にお立ち寄りいただき、現役生との稽古や激励をお願いいたします。それではメールでのご連絡をお待ちしています。

金鷄剣友会事務局 会長 酒井 博(高26回)
sakaihiroshi@po15.ueda.ne.jp

県庁金鷄会

2月13日(金)、令和7年度長野県庁金鷄会総会及び懇親会を長野市内のホテルにて開催しました。コロナ禍を経て久しぶりに多くの会員が一堂に会する機会となりました。

当日は来賓として、廣田昌彦校長先生(高34回)、県議会の高島陽子議員(高39回)、加藤康治議員(高42回)にご出席いただき、県庁内からも田中達也会長(高37回、県産業政策監)をはじめ幹部から若手まで幅広い世代の約50名が参加しました。

総会では決算・予算の承認などの議事を行い、その後の懇親会では、高校生当時の班活動などの思い出や、久しぶりの再会に近況を語り合う声があちこちで聞かれました。また、応援団OBによるエールの余興もあり、世代や立場を超えた交流が生まれ、大いに盛り上がるひとときとなりました。こうした機会を通じ、同窓の縁の大切さや世代を超えたつながりの意義を改めて実感することができました。

廣田校長先生からは母校の近況を伺い、現役生のさまざまな活躍をお聞きすることができ、卒業生として大変心強く感じました。また、当会から母校への支援をお約束させていただきました。母校の一助となれば幸いです。

近年は当会の活動の縮小が続いていましたが、母校とのつながりや、同窓とのつながりを大切にしながら、長野県庁金鷄会の活動をさらに発展させていきたいという声上がり、今後の更に活発な当会の活動への期待とともに会を閉じました。(高64回 堀内侑真)

第15回 松本金鷄会

3月5日(木)、深志神社「梅風閣」にて、第15回目となる松本金鷄会を盛大に開催いたしました。今回は近年まれにみる参加者の多さとなり計28名。そのうち初参加が6名と、新しい顔ぶれが一気に増えたことが特筆点です。さらに女性参加者3名は全員が初参加。

今回も小岩井副会長(高20回)から差し入れをいただきました。松本が天下に誇る清酒「岩波」を10本以上もご提供いただきました。開会の中野会長(高25回)よりごあいさつ。こうして年に一度集えることのありがたさ、そして初参加が増えたことへの歓迎の言葉が述べられました。続いて、新保さん(高11回)による乾杯。

乾杯後は30分ほど歓談の時間を設けました。初参加の方々も各テーブルで温かく迎えられ、自然と会話の輪が広がっていきました。歓談ののち、今回初参加となった6名の皆さまから、お一人ずつ「ひとこと」を賜りました。若い順番ということで、トップバッターは小林さん(高72回)、続いて久保田さん(高72回)。



高12回2組



吹奏楽班OB・OG会



吹奏楽班OB・OG会



吹奏楽班OB・OG会



高72回といえば24歳前後。会場には高11回生の先輩方も3名参加されており、なんと回期差は61年。まさに「世代を超えて同じ場に集う」という、本会の醍醐味が最もわかりやすい形で現れた場面でした。3人目は吉味さん(高70回)。続いて荻原さん(高63回・合唱披露あり)、塚本さん(高42回)、最後に芳澤さん(高35回)。

今回、事務局から「松本金鷄会として旗をつくってはどうか」という提案をさせていただき、皆さまから了承を得ました。写真撮影の際などに「松本金鷄会としてここにいる」という一体感を形にできるのが旗の意義です。

終盤は、応援団OBによる校歌とエールで締めくくられました。これがまさに圧巻。声の張り、所作の切れ、場をまとめ上げる迫力。会場の空気が一瞬であの頃に引き戻されるような時間でした。驚くべきことに、出席者28名のうち3名が応援団OB。過去14回の開催ではなかった出来事であり、記念すべき第15回に新たな伝統の可能性が加わった瞬間でもありました。応援団OB 3人衆は、山岸さん(高31回)、塚本さん(高42回)、山本さん(高50回)。最後の中締めのご挨拶は太田さん(高26回)。次回へ向けた期待と、より多くの同窓へ声をかけていこうという前向きなメッセージが示され、会は気持ちよく結ばれました。(高35回 宮之本伸)

ESS班OB・OG会

3月28日(土)、東京丸の内のオアゾ5F和食「えん」にて恒例のESS班OB・OG会が開催され、高21回から高32回までの13名が参加した。

○小林克行32 ○小林久美子30 △宮尾聖木29
 佐藤日出一28 峯村宏28 大塚久美子27 杉ノ原克之27
 高見沢千恵子27 矢沢秀夫27 △山本雅夫26
 柄沢由規子23 塩川由美21 金岡豊21
 (便宜上旧姓使用 ○は今回の幹事 △は次回幹事 数字は回期)

長野から矢沢君が忙しい中、駆けつけてくれた。ビールで乾杯の後、金鷄祭での英語劇や部活での話が盛り上がり、アルコールの勢いもあって2時間半の時間があっという間に過ぎ去った。次回の幹事を決めたが、話が尽きず八重洲の地下での2次会が始まった。参加者は9名。各自飲み物は好きなものをオーダーし、ワインボトルが2本開いた。

金鷄祭における上演演目は、1965テンペスト、1966

真面目が大切、1967オセロ、1968リア王、1969サロメ、1970お気に召すまま、1971ヴェニス商人、1972ハムレット、1973マクベス、1974ヴェニス商人、1975お気に召すまま、1976リア王、1977テンペスト、1978マクベス、1979ヴェニス商人。真面目が大切とサロメはオスカー・ワイルド、それ以外はシェークスピアの作品である。

竹内先輩(高20回)からOB・OG会を長野で開催してくれとの要請があり、名簿作成から始めることにした。ESS班に短い期間でも所属していた方は、以下の携帯にSMSで情報をお寄せください。

090-2476-9992 金岡 豊

来年の8月に長野で開催を予定し、詳細については改めて連絡いたします。(高21回 金岡 豊)

高12回 2組同級会

4月11日(土)午前11時半、ホテルメトロポリタン長野で2組同級会が始まった。7年ぶりの待ちに待った嬉しく、懐かしい集いだ。

同級生49名の内、18名と同伴者1名の参加を得た。卒業後66年の歳月を経た兵達の集であり、静かなはずがない。あちこちで無事再会の歓声上がる。とはいえ、担任の日垣秀雄先生他14名の諸君が故人となられた寂しさも手伝い、会初めの「黙祷」は様々な思い出が交錯する厳粛な時間となった。

横山悟発起人代表の同級会再開への熱い思いと、同級生と再会でき、今が最も幸せな気持ちだとの力強い挨拶の後、丸山光君の音頭で声高らかに乾杯へと移った。

この日参加できなかった諸君が寄せた近況報告のほか、同級生名簿や卒業写真をもとに参加者全員が自分のこれまで歩んできた道と近況・心情等を語った。その誰もが感じたことは、今日同級会に「参加」できた喜びであり、見知った友への「安堵感」であった。

皆酒量は激減したが会は最高潮に達し、武村宏一郎君指揮により青春の思い出、校歌「山また山」を完璧に歌い通すことができた。3時間に及ぶ会合にも、皆疲れを感じることなく、来年の再会を誓い合い、散会した。

今回富山・岐阜県等遠方から参加し、盛り上げてくれた諸君、心から感謝します。また近況報告を寄せてくれ、参加できなかった諸君には、次回ぜひお会いし

たいと願っています。最後に、前身の2組同級会「うなぎの会」を長く主催いただいた横山悟君及び松谷元孝君(故人)に深く感謝申し上げます。(小林 紘)

吹奏楽班OB・OG会 第57回定期演奏会

去る3月28日(土)、長野高校吹奏楽班OB・OG(以下OB)会は、第57回定期演奏会をホクト文化ホール中ホールにて開催いたしました。当日は、現役生を含む演奏者・スタッフあわせて約100名のOBの皆様にご協力いただき、多くのお客様にもご来場いただきました。

スローガン「金鷄の輪～音楽で繋がる瞬間～」を掲げて開催された今回の演奏会は、第1部がOBによるステージ、第2部が現役生によるステージという構成で、それぞれの魅力が存分に発揮されました。第3部ではOBと現役生によるジョイントステージが行われ、大人数ならではの迫力ある演奏となり、OB定期演奏会にふさわしい華やかなフィナーレとなりました。

また、今年の大きな特徴として、例年より多くのOBの皆様が演奏ではなく会場スタッフとして協力してくださったことが挙げられます。これまで奏者としては参加が難しかった先輩方が、スタッフ不足の状況を理解してくださり、「スタッフなら」と協力してくださったことは、私たち幹事学年にとって大きな励みとなりました。

今後ますますOBの輪を広げながら、現役生の活動にも温かいエールを送りつつ、吹奏楽全体の発展に貢献していきたいと思えます。

〈お知らせ〉定期演奏会の様子は公式サイトでご覧いただけます。<https://nhb-obog.net>

(令和7年度幹事学年代表 高76回 傘木愛弥)

高38回 卒業40周年同窓会

5月3日(日)、ホテル国際21において、「還暦直前！長野高校38回生卒業40周年記念同窓会」が開催されました。学年全体の会は幹事を担当した同窓会総会(令和4年)を除くと30周年以来10年振りの開催。当日は、3名の当時の担任の先生方(3組 近藤均一先生、6組 宮下喜光先生、8組 藤本光世先生)にもご臨席賜り、計85名が集合しました。夏の暑さを警戒し、今回はGW中に変更しての開催であります。

今年“数えで還暦”を迎える我々に対し、石井広恵

さん(3組)が「同級生で旧交を温めつつ素敵な“ほぼ還暦の年”を迎えましょう！」と手作りしてくれた赤いリボン(還暦にちなんだ)を一人一人着用して晴れやかに同窓会に臨みました。

司会は幹事副代表の渡邊智子さん(6組)。黙祷の後、幹事代表の挨拶。その後！長野高校校長の佐野浩一郎先生の乾杯のご発声。佐野先生は我ら38回の同期生(5組)でもあるので乾杯は大変な盛り上がりを見せました。

宴席では、まず3名の担任の先生方からご挨拶を頂戴しました。その後、日テレ系「しゃべくり007」に葉加瀬太郎さんの親友として太郎さんと共に出演した藝大卒の桐山建志君(3組)が登場。太郎さんとの思い出を語りつつ、美しいヴァイオリンの調べを奏でいただきました。

懇親会の終盤、応援団の小池広益君(1組)、佐野校長先生、私鈴木のリードで「山また山」の大合唱。3人は母校、恩師、38回生に向け熱いエールを送りました。

最後に藤本先生の中締めでお開きとなり、その後各クラスでの二次会は怒涛の盛り上がりを見せたのは言うまでもありません。

この場をお借りして金鷄会、準備に勤しんでくれた10名の幹事の皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました！(幹事代表 鈴木隆治)

第4回 JAL金鷄会

去る某日、日本航空(JAL)に在籍する長野高校卒業生による職域親睦会「第4回 JAL金鷄会」を都内にて開催いたしました。

本会は2018年、「空の仕事に携わる同窓生の輪を広げよう」という志のもとに産声を上げた集まりです。コロナ禍という大きな逆風を乗り越え、中断期間を経て今回で4回目の開催を迎えることができました。当日は、総合職・パイロット・客室乗務員と、職種の垣根を越えて総勢9名のOB・OGが集結。上は経験豊かなベテランから下は気鋭の若手社員まで、幅広い世代が顔を揃えました。

会場には、都内にありながら長野の豊かな旬の味を楽しめるお店を選びました。テーブルに並ぶ郷愁を誘う地元の料理を囲めば、話題は自然と信濃の学び舎での思い出に。校内での活気あふれる風景や部活動の苦勞話、さらには地元の人にしか伝わらないマニアック

なローカルトークに至るまで、世代を超えた「長高あるある」で大いに盛り上がりました。

「JAL金鶏会」の醍醐味は、社内での役職や年次を脇に置き、ひとたび集まれば金鶏魂を共有する一人の「長高生」として、気兼ねなくリラックスして過ごせる点にあります。初対面の先輩後輩であっても、山また山の先の空を職場に選んだ者同士、不思議なほどすぐに打ち解けられるのは、母校が育んだ深い絆があってこそだと改めて実感いたしました。

世界を飛び回る私たちですが、その心の拠り所には常に信州の雄大な山々と母校での学びがあります。この貴重なネットワークを今後も大切に育み、次代の「空飛ぶ金鶏」たちへと繋いでいきたいと考えております。

末筆ながら、母校の益々の発展と同窓生の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(高52回 太田鉄也)

高19回 卒業60周年記念同期会

我々19回卒は、「19」と「一休(いっきゅう)」をかけて「人生ひとやすみしながら」という趣旨から「一休会」と名付け、コロナ前まで毎年同期会を開催してきました。しかしコロナ期間中は開催できず、母校卒業60周年記念として、本年5月9日(土)に3年ぶりに長野駅東口の「茶寮志もだ」に44名が集いました。

前半は、一休会総会を行い、過年度の会計報告と今回の協賛金による母校への寄付金についての賛同を

得ました。そして、昨年旭日双光章叙勲表彰に輝いた竹重王仁君(前長野県医師会長)に一休会慶弔規定により記念品を贈呈しました。また23年間の長きにわたり衆議院議員を務めた篠原孝君にも挨拶をしてもらいました。

その後懇親会、アメリカ在住で卒業以来初参加の石川得道君の経歴話等を聞きながら、大いに飲み語り合いました。最後に4名の応援団OBのリードで南下軍と校歌を歌い、エールを実施して散会となりました。

翌日には年2回40年続いている一休会ゴルフコンペの80回記念大会を実施し、15人が集いました。

(一休会会長 北澤眞一)

高9回 東京北ラス会

昭和32年4月に長野北高校から長野高校に校名が変わりました。32年3月卒業の我々は北高最後の卒業生として「北ラス会」の名のもとに毎年春は東京、秋は長野で同期会を開いています。

今年は米寿を迎えるという高齢となりましたが、5月18日(月)、KKRホテル東京に元気者が集いました。幸い天気にも恵まれ、長野からも7名が参加してくれました。この一年で16名が鬼籍に入られ、体調を崩されている方も多く、どのくらい集まるか心配でしたが、昨年と同じくらいの30名の出席者となりホッとしました。

物故者への追悼を行い、幹事挨拶、長野幹事挨拶の



高9回 東京北ラス会

後、乾杯の音頭により懇談に入りました。

母校の現況について佐野校長先生からメッセージをいただき、若い後輩たちの澁刺とした活動に思いを馳せることができました。

お互いに米寿を祝いつつも、亡くなった親友の思い出話や、足腰の痛みや弱り、難聴の悩みなど身体の不調に関する話題が多かったのも止むを得ないでしょ

う。このような状況から「北ラス会」をいつまで続けられるか考えなければならぬ時に来ているようです。来年は卒業70周年になりますので、一つの節目ともいえるでしょう。

最後に大きな声で校歌「山また山」を斉唱し、お互い身体を労り、またの再会を約して散会しました。

(松本英一)



長野高校のホームページが新しくなりました

令和8年4月1日に、長野高校のホームページを一新しました。新しいホームページでは、以下に重点を置き、作成しました。

- ①生徒の声や活動が届く、臨場感あるページに
 - ②長野高校の魅力が、よりわかりやすく伝わるように
 - ③卒業生の声も掲載し、卒業後のイメージも湧くように
 - ④長野高校らしく、伝統と革新をイメージしたデザインに
- 制作にはかなりの時間を要しましたが、多くの方々の協力により完成しました。また、業者も熱い思いで携

わってくださいました(高46回の坂田さんが担当でした)。ぜひ、多くの皆様にご覧いただければ幸いです。

(長野高校ホームページ改訂担当

江原一幸・武田圭弘)

URL : <https://www.nagano-hs.ed.jp/>



金鷄太陽光120奨学金

令和8年3月3日、全日制卒業式に合わせて6回目の太陽光120奨学金の授与式を行いました。通常2名ないし3名のところ今年はやや異例で5名となったため、減額しての授与となりました。会長から激励の言葉が贈られ、卒業生からは感謝と今後の抱負が語られました。それぞれの目標に向かって頑張ってほしいと思います。また2名はより高みを目指す選択をし、奨学金を次年度以降へ持ち越しました。なお、今年も匿名の同窓生からのご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。以下、昨年進学した奨学生の近況です。ご覧ください。

私は一浪を経て昨年大学に進学し、現在は一人暮らしをしながら東京の大学に通っております。昨今の物価高により生活費や家賃の負担が一層かさむ中で、太陽光奨学金は大学生活を送る上で大きな助けとなり、昨年一年を無事に終えることができました。寄付をしてくださった方々並びに同窓会の皆様にご心より感謝申し上げます。

私の学部では「持続可能な社会の実現」を目指し、社会科学を中心に自然科学や人文科学を横断的に学ぶ学際的なカリキュラムが組まれています。その中で私は、2年次から国際法を基盤として「国際平和の追求」を

テーマとするゼミに所属しました。現在の国際社会における人権問題や環境問題、領土問題などについて理解を深め、議論を通して解決策を模索しています。まだ入ったばかりで内容に追いつくことに苦労することもあります。日々努力を重ね、今後3年間を通して理解を深めていきたいと考えています。

長野を離れたからこそ、これまでお世話になった長野高校をはじめとする長野県への感謝の気持ちをより一層強く感じています。また、帰省するたびに故郷のあたたかさを改めて実感しています。これからも故郷への感謝を忘れず、勉学に励むとともに、積極的に新

たな経験を求め、充実した大学生活を送ってまいります。

私は現在、東京の私立大学の法学部に通う2年生です。大学で法律を学びながら司法試験合格を目指して予備校にも通っています。小学生のころから弁護士になることが夢であり、その夢に向かって日々勉強に励んでいます。また、私は3つの法律サークルに所属しており、そのうち1つでは副幹事長を務めています。私の大学は「日本一サークルが多い大学」としても有名で、学生一人ひとりが自分に合った活動を見つけられることが大きな魅力だと感じています。

このように大学生活を充実したものにできているその一要素に太陽光奨学金の存在があります。このことには深く感謝をするとともに、いただいたものを無駄にしないように今後とも精一杯励んでいこうと思っています。

さて、今回は、私が大学で最初に学んだ「罪刑法定主義」という考え方についてお話したいと思います。これは、刑法の大原則であり、意味としては「どんな行為が犯罪で、どんな刑罰が科されるかは、あらかじめ法律で決めておかなければならない」というものです。昨今、犯罪に対する社会的非難は過激化しており、そのあらわれとして厳罰化も進んでいます。しかし、そもそも刑罰を与えるという行為は非常に危険であり、それが認められるには正当な根拠が必ず必要です。

改めまして、この度は奨学金のご支援を賜り、誠にありがとうございました。

それを、単純な感情論、たとえば「殺された人がかわいそう」だとかで罰していいはずがありません。その犯罪に対して、相応の刑を与えることが重要であるのです。

入学して間もなくこの原則を学んだとき、私は法律の奥深さとともに法律が身近なものであることを強く実感しました。この話は、日常の小さな場面でも意識すべきであると考えています。たとえば生徒が何か悪いことをした時、感情的に怒ることは果たして相応の処罰といえるのでしょうか、一度怒ったことをまた別の機会でも怒ることはどうでしょうか。日常には「刑法」といったような明文化された規定は存在しません。だからこそ、感情論ではなく客観的・俯瞰的に物事を見極める個々の力が要請されるのです。

今では私は、人間が正しく反省し、改心し、成長していくためには、厳罰による恐怖感はずしも必要ではないと考えています。これは法律の基礎中の基礎のような考え方です。法律の立法趣旨には様々な考えがあり、それを学ぶことは世界の認識を大きく変えると確信しています。これを読んでくれている高校生の方が少しでも法律を身近なものと感じ、興味を抱いてくれたらうれしく思います。

令和8年度 同窓会総会のご案内

期 日 令和8年6月27日(土)
 会 場 ホテル国際21
 総 会 午後2時～ 藤の間
 講演会 午後3時～ 藤の間
 演 題 私たちは知らないうちに学んでいる
 ～知ってた？脳とAIの学び方～
 講 師 酒井 裕氏(高42回)
 玉川大学 脳科学研究所 教授
 懇 親 会 午後4時30分～ 芙蓉の間
 会費 6,500円 当日受付でいただきます。

*今年度の当番は、高42回・高54回の方々です。
 *出席される方は事務局へお知らせください。

回期別対抗ゴルフコンペのご案内

期 日 令和8年9月27日(日)
 場 所 長野カントリークラブ
 費 用 プレー代 17,000円(食事付き)
 ※優待券は使えません
 参 加 費 3,000円
 競技方法 新ペリア方式
 ☆団体戦：各回期上位3名までの団体
 合計成績順位
 ☆個人戦：個人別成績順位
 申込方法 メールまたはFAXで同窓会事務局へ各
 回期3名以上の連記(2組以上も可)で
 お申し込みください。
 締切日 9月5日(土) *25組で締切ります
 ※個人参加の枠も若干用意しましたので、同期3名以上
 とならない方もご参加いただけます。
 ※各組のスタート時刻、その他詳細については9月18日
 頃、参加者にご連絡いたします。

市民大学事業

金鷄会館連続公開講座

古文書と考古学から解き明かす歴史学—「いま明かされる古代56&中世・近世」

公開講座

主催：一般社団法人長野教育文化振興会
 協力：一般社団法人長野高等学校金鷄会
 後援：長野県、長野県教育委員会、長野県長野高等学校

於 金鷄会館 大講義室

第1回 6月6日(土)【第362回講演】

一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
 調査部 調査第三課 主任調査研究員 伊藤 愛 先生
 「発掘された「幻の城」長沼城跡 その2」—発掘調査とその後—

第2回 6月20日(土)【第363回講演】

いづな歴史ふれあい館 学芸員・飯綱町教育委員会
 生涯学習係 担当係長 小山 丈夫 先生
 「長沼藩の「リアル」」—藩主佐久間家四代とその家臣団—

第3回 7月11日(土)【第364回講演】

元 大阪城天守閣 館長・九度山・真田ミュージアム名誉館長
 北川 央 先生
 「秀吉と秀長」—豊臣兄弟の本当の関係—

第4回 7月25日(土)【第365回講演】

長野県長野西高等学校 講師・信州大学 教育学部 非常勤講師・
 早稲田大学 文学学術院 非常勤講師 傳田 伊史 先生
 「麻績」の由来とその歴史の変遷 その2—「麻績」から「麻績」へ—

第5回 8月29日(土)【第366回講演】

信州大学 工学部 建築学科 助教 中村 駿介 先生
 「江戸時代の善光寺門前町の都市空間とその経営 その2」
 —善光寺門前の検地帳を元に—

第6回 9月12日(土)【第367回講演】

立命館大学 文学部 日本史研究学域 特命教授
 本郷 真紹 先生
 「古代神仏関係の展開」—8世紀の動向を中心に—

第7回 10月3日(土)【第368回講演】

早稲田大学 文学学術院 教授
 川尻 秋生 先生
 「古代人と故郷」—古代人は自分の出身地を知っていたのか?—



令和8年度同窓会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

送金方法

①同封の振込用紙でのお振り込み

コンビニ・郵便局のどちらでも利用できます

②用紙を使わず銀行へのお振り込み

下記の口座へお願いいたします。お名前と卒業回期または、
 お客様番号を入力してください。

八十二長野銀行 長野北支店 普通 133722
 一般社団法人長野高等学校金鷄会
 長野信用金庫 城北支店 普通 0031958
 一般社団法人長野高等学校金鷄会

③スマートフォン決済

「d払い」「auPAY」「FamiPay」「楽天ペイ」「AEON Pay」が
 利用できます。

振込用紙に印刷されているバーコードを読み込んで、納入
 していただくことができます。なお、チャージ残高から支
 払われますので、ご利用の際は事前に残高の確認をお願い
 します。

*口座振替の方は6月29日(月)に引き落としとなります。
 *本年度は高16回までの会員の方々が会費免除になります。

結婚相談室のご案内

- 相談日時 原則として土曜日 10時から16時まで
 変更となる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
- 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めて
 おります。

ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談に
 お見えになっても結構です。

ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

TEL 026-235-3822(平日14時~19時)

E-mail dousoukai@kinshi.org

http://www.kinshi.org



同期会開催のご案内

- ◇高28回 卒業50周年記念同窓会
 10月10日(土) 午後3時 ホテル国際21
- ◇高58回 卒業20周年記念同窓会
 8月15日(土) 午後3時 ホテルメトロポリタン長野

池田満寿夫ギャラリー

金鷄会館では池田満寿夫(高4回)の作
 品を50点余り、常設展示しております。
 ぜひ、ご覧にお越し
 ください。
 平日14時~17時、そ
 れ以外の時間は予め
 ご連絡ください。



新規データベースへの
 登録のお願い

新たなデータベースの構築を
 進めています。
 会員の皆さん
 からの登録を
 お願いします。



寄贈図書



歲月
Time and Tide
—中村敬而・中村ゆみ
日本画作品集—
中村敬而氏(高6回)寄贈



医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY
2025年12月号～2026年薫風号
野村元久氏(高10回)寄贈



卒業論文のデザイン
質問紙調査による
社会心理学研究
著者 川浦康至氏(高22回)



大恐慌の子どもたち
社会変動とライフコース
川浦康至氏(高22回)監訳



新版
インターネットの心理学
川浦康至氏(高22回)共訳



歌集 旧友
著者 小山国憲氏(高26回)



長野高校
第27回生卒業50周年記念文集
(6組限定)
荻原 実氏(高27回)寄贈



ALSハンドブック
清水俊夫氏(高31回)編著



歯周治療の長期継続管理
戦略的な補綴介入と
トラブル対応
著者 谷口崇拓氏(高45回)



イラン立憲革命前夜の翻案文学
翻訳・創作・思想の交錯
著者 木下美紀氏(高64回)



長野高校生物班OB会誌
うばたまむし18号
2025(令和7)年
生物班OB会 寄贈

ご寄付をいただきました。

◇高15回 関東地区同期会

4月25日(土)、東京都千代田区永田町「永楽倶楽部」において15回生関東地区同期会が開催されました。現在120名の登録があり、定期的に同期会を開催してきましたが、会員の高齢化もあり今回を最後とすることになりました。

ついては、皆の総意で同期会会計残金9万円を寄付することを決めましたので、母校の発展に役立てていただければと思います。



高15回

◇高15回 関東地区同期会

9万円

◇高19回 卒業60周年

10万円

◇高27回 卒業50周年

40万円

◇高78回 旧1年6組、

2・3年2組 1万524円

◇匿名の同窓生の方 20万円



高19回



高27回



高78回

ありがとうございました。



- 今号に日本航空の職域OB・OG会の様子が掲載されました。また前号では北海道の集まりが投稿されました。職域や地域での同窓会も大小にかかわらずご紹介したいと思いますので、OB・OGの活躍やつながりの様子などを日新鐘にお寄せください。よろしくお願ひします。
- 令和8年度分の会費振込用紙をお送りいたしました。会員の皆様からの会費納入により、会の運営だけでなく現役生への支援が実施できますのでご協力のほどよろしくお願ひいたします。なお、スマホ決済に従来のd払い・auPAY・FamiPayのほかAEON Payと楽天ペイが追加されました。ご利用ください。